

## 第3学年 授業改善推進プラン

	課題 ※児童の実態から	授業改善の手立て
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話の中心に気を付けたり、筋道を立てたりして「話す・聞く」や「書く」ことの個人差が大きい。</li> <li>・語彙が少なく、分掌に広がりがない。</li> <li>・新出漢字の定着に個人差が大きい。また、全体的に普段の文章の中で使っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現したい内容を表に整理して推敲する活動や、互いに聞き、読み合う活動の中で、中心や筋道を意図的に取り上げる。</li> <li>・普段から漢字を使うことを意識し、漢字で表現するよさを実感させる。</li> <li>・鈴木タイムや宿題で漢字の練習、音読の質と量を確保する。（「読む」「書く」の訓練）</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住んでいる地域のことに興味をもって学習しているが、知識や資料から自分の生活と関連付けた考察をすることについては十分とは言えない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の中から問題を見出し、実生活に合った教材や資料を活用していく。</li> <li>・まとめの際、学習したことから何がわかったか具体的な内容で振り返るように促していく。</li> <li>・振り返りのしやすいノート作りを目指し、記録方法をより具体的に指導する。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習への意欲は高く、課題をしっかりと取り組んでいる。自信がなく説明することに対し、苦手意識をもっている児童もいる。学級内の学力差が大きい。</li> <li>・ルーティンな計算は速く正確にできるが、文章題になると、正答率が下がる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視聴覚教材や、具体物、掲示物等を工夫し、児童の興味や関心を引き出し、考えを説明しやすい環境を整える。</li> <li>・習熟度に合わせた補助的なプリントを用意し、学習意欲を高め、自信をもたせる。また、TAを活用し、個別指導を充実していく。</li> <li>・なぜそうなるのかを考えさせ、話し合いの場を取り入れ、説明をする機会を多く設ける。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事象から学習問題を見出す力はあるが、解決方法を考える思考力や、正確に実験する技能に個人差がある。</li> <li>・既習事項を思い出して予想したり、他種・前後の比較をしながら考察したりする力が十分ではない。</li> <li>・観察では、形を正確に捉えてスケッチすることが苦手な児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・器具の安全な取り扱いについては、引き続き経験を積みさせていく。問題解決型の学習過程を多く体験させ、思考力の向上につなげる。</li> <li>・実生活や学習体験を通して、差異点や共通点を基に問題を見出し、考えるように促す。</li> <li>・注目するポイントを提示し、言語化してから観察を行うことで、視点を明確にする。記録や視覚的にわかりやすい資料を</li> <li>・特徴の捉え方を具体的に指導する。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲はあるが、特性に応じた技能については個人差がある。個に応じためあてをもって運動することにも個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてを確認し、自分ができる工夫を明らかにする時間を確保し、具体的に振り返りができるようにする。</li> <li>・児童が互いに教え合う機会を設定する。</li> <li>・安全面を意識した活動をさせる。</li> </ul>
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分とは違う考えがあること、他者と関わりながら今の自分をみつめ、自覚する差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてを十分に理解する場をつくり、自分の日常の具体的な場面に置き換えて自分を見つめる時間を十分に確保する。</li> <li>・引き続き、友達の様々な考え方を多く聞き合える場を設定する。</li> </ul>

## 第4学年 授業改善推進プラン

	課題 ※児童の実態から	授業改善の手立て
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話す・聞く」について、話の中心に気を付けたり、筋道を立てたりすることや、集中して話し手の話したいことを理解しながら聞いている児童が少ない。</li> <li>・「書く」について、内容の中心を明確にし、まとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章を書くことに個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や朝の会などでスピーチする機会を定期的に設け、スピーチの仕方や聞き方を確認しながら指導し、定着をはかる。</li> <li>・作文の単元、日記指導において、自分の書きたい中心を決めさせ、「はじめ」「中」「終わり」の基本的な文章の書き方で書くことを定着させる。書いた文章を段落ごとで内容のまとまりを押さえ、分かりやすい段落になっているか校正させる。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都内の区市町村や東京近隣の都道府県の位置や名称を覚えている児童が少ない。</li> <li>・くらしに関わること(安全やインフラ)について、関心をもちながら学習に臨んでいるが、学んだことを生かした考察や表現をすることが難しい児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小平市及び東京都に隣接している都道府県、身近な都道府県の地図を積極的に活用し、また国語での都道府県に関わる新出漢字を学ぶときにも位置を確認しながら学習を進め、見る・書く・指差すなど様々な場面で習熟を目指す。</li> <li>・学んだことを最後に文章や図で自分なりにまとめ、振り返る活動を取り入れ、日常生活に繋がれるように考えたり、声かけをしたりする。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概ね課題に対して、集中し熱心に取り組む。しかし、低学年で学習した簡単な計算に時間がかかり、問題を立式しても解答できない児童がいる。また文章題の読み取りや作図など個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元はじめに、その単元に関わる既習事項を確認したり、宿題でも既習事項を定期的に復習したりする機会を設け、基礎学力の定着をはかる。また自分の考えたことが説明できるよう、グループ活動を取り入れるなど、問題解決型の学習の定着を図り、TAを活用した個別指導の充実を図りながら、習熟度に合った学習活動を展開していく。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項を思い出して根拠のある予想や仮説を立てる力が不十分である。</li> <li>・観察の仕方の定着が十分ではない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実生活や学習体験を基にしながら考えるように促す。単元の導入では児童の興味を引く事象提示を行う。</li> <li>・生物の観察では、定性的観察だけでなく、比較対照(以前と比べて…)しながら数量的観察を意識させるよう具体的に指導する。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲は高いが、グループまたは個人で、めあてをもって運動することや課題に対してどのような練習を取り組んでいけばよいか考えることが難しい児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてを設定できる学習カードを用意する。自分の課題とその解決策、振り返りを記入し、次回の授業に生かせるようにする。また個人ではなく集団で動いているということを意識できるようにする。</li> </ul>
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの立場や状況から多角的に考える経験が浅い児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えをペアやグループで話し合う活動を取り入れる。また、話し合いの目的や方法を分かりやすく提示し、自分の考えを他者の考えも参考にして深めていけるようにする。</li> </ul>

